

## 令和5年度 城山地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和6年1月18日（木）午後6時から午後7時30分まで
- 2 場 所 城山公民館 大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、奈良副市長、石原緑区長、佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長、榎本市民局長、関緑区副区長
- 4 出席委員等 20人
- 5 傍聴者 3人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	ごみ収集における地域と自治体の役割について
概要	<p>ごみの収集方式は、ステーション（ごみ集積場所）収集と戸別収集に分かれるが、城山地区では、全域がステーション収集であり、そのごみステーションの設置・管理は利用者である地域住民が行うことになっており、自治会等の地域団体がその役割を担っている。</p> <p>しかしながら、住宅開発が進み世帯数が増加している地域においては、住宅地の開発基準との関係でごみステーションが設けられないケースがあり、既存のごみステーションのごみ排出量が許容量を超えている場所が複数ある。</p> <p>こうした中、自治会員以外への対応をこれまでどおり自治会が担っていくことは、自治会加入率が約50%という状況から考えても困難であり、また、ごみステーションを新設する際の土地の確保も難しく、自治会での対応には限界がある。</p> <p>そこで、ごみステーションの設置・管理を市と地域住民で協働して行うことができる仕組みづくりや、戸別収集への変更の可能性などについて懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>城山地区では、地域が一体となつてごみの分別や資源回収、ごみの減量化に取り組むなど、市が進めるごみ対策に積極的に協力している。特に集団資源回収については、12の自治会のある城山地区内で、子ども会や自治会などの14団体が実施しており、この活動はごみの減量化だけでなく、地域コミュニティの醸成とSDGsの推進にも寄与している。</p>
市の取組状況等	<p>日ごろから、適正なごみの分別や排出、不法投棄防止対策についてご協力をいただき、お礼申し上げます。市民の一番身近な問題としてごみ問題があると受け止めており、ごみ・資源集積場所に関すること、ごみの有料化や戸別収集、また高齢化に伴う一般ごみのふれあい収集など課題も多いと感じている。</p> <p>本市には、約2万箇所のごみ・資源集積場所があり、城山地区内には700箇所ほどある。ごみ・資源集積場所の用地は、地域や利用者間で調整し確保いただくことを基本としており、個別の相談にも応じているところであるが、地域によって用地の確保が難しい場合もある。ごみ・資源集積場所の新設や移設については、市で相談等を受けることもあるが、最終的には市民の皆様のご理解とご協力により、スムーズな解決ができるよう心掛けている。</p> <p>11月17日に城山地区自治会連合会会議で、小田急電鉄の一般ごみ収集運搬のDX化に関する実証実験の説明をさせていただいた際、原宿自治会会長より「ごみステーションのごみ排出量が許容量を超えている場所がある。」とのご意</p>

	<p>見をいただき、現地及び周辺の集積場所を確認したところ、新設は場所の確保が難しいが、周辺の集積場所にはごみの排出余力があることが確認できたため、代替案として、排出する世帯の分散を行っていただくことを提案し、自治会で検討する旨の回答をいただいていると聞いている。今後は他自治体の事例も参考に、民間事業者への働きかけなど、集積場所の確保策について研究し、地域住民が安心してごみ・資源集積場所を利用できるよう、望ましいあり方について検討していく。</p> <p>戸別収集について、今年度、収集体制の在り方などについてコンサルタントに業務委託を行い、必要な人員や車両数を検証するための積算や、課題の洗い出しを行っているところである。本市の一般廃棄物処理の基本方針である「第3次相模原市一般廃棄物処理基本計画」の改定作業を進めており、戸別収集については、「市民ニーズに対応したごみ収集の検討」として記載している。昨年10月に実施した、本市の家庭系ごみ・事業系ごみの収集運搬事業など一般廃棄物処理業務にあたっている「相模原市環境事業協同組合」との戸別収集についての意見交換会では、人材確保や実施方法等の難しさなどについて意見をいただいた。</p> <p>本市の約34万5千世帯について、一般ごみ及び資源物も含めて検討する必要があるが、本市における居住形態の約半数が集合住宅であり、こうした方々への対応について検討が必要である。</p> <p>戸別収集は、ごみが出しやすく、排出マナーの改善などのメリットがある一方、住宅ごとにごみの排出場所を敷地内に確保することや、カラス等の鳥獣対策も各戸で対応していただく必要がある。更には、現状のステーション収集と比較して、戸別収集は多くの作業員を要し、多額の経費が必要となるため、有料化と併せた検討も必要である。本市のごみの排出量や近隣自治体の動向なども見極め、本市に適した収集体制の在り方について検討する。また、高齢化に伴い、ごみ出しが困難となる方の支援が課題と認識しており、関係機関と連携を図り社会情勢やニーズに対応した収集体制について検討を進めていく。</p> <p>津久井クリーンセンターにおいては、昨年11月より「ごみ減量化・資源化」「食品ロス削減」の意識啓発を図るため、農産物の地産地消の促進を図るための農産物販売と併せて、普及啓発活動を実施している。家庭ごみ等は、市内の清掃工場で焼却した後、灰などを南区麻溝台にある「一般廃棄物最終処分場」に埋め立てており、令和19年度には一杯となる見込みである。最終処分場の延命化は喫緊の課題であり、ごみの減量化・再資源化がより一層重要になる。最終処分場の見学会なども開催しているので、是非一度、最終処分場を見ていただきたい。</p> <p style="text-align: right;">(奈良副市長)</p>
--	---

懇談内容	
<p>地区の発言</p>	<p>戸別収集の検討については市自治会連合会でも話題に上がるが、緑区は高齢者等が自宅前にごみを出せるなどのメリットがあるものの、中央区や南区の特にマンションだと、すでにマンション内に集積所があるため、メリットがあまりないと思われる。地区ごとに戸別収集のあり方について検討はしているのか。</p>
<p>市の発言</p>	<p>区域によって収集体制を分けることも考えられるが、一方で課題も非常に多いと感じている。様々な角度から今後検討していきたい。</p>

	(佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長)
地区の発言	戸別収集と現在の収集方法について、経費などの試算はしているのか。また、有料化の検討状況はどうか。
市の発言	最近の傾向では、戸別収集と有料化はセットで行うことが多いが、本来は別の話と考えている。戸別収集にした場合の市への財政的影響や諸課題については現在検討中であり、その結果に基づき、今後本市に適した収集体制の在り方を検討していきたい。有料化に関してはまた別に議論が必要と考えており、現時点でこの方法が一番良いといったところまでは申し上げられない。 (佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長)
市の発言	現在、戸別収集にした場合の必要人員や経費を、コンサルタントに調査委託しているところである。昨年10月に事業者と話した際、ステーション収集と比較して、戸別収集だと一軒ずつ玄関前まで作業員が行くことになるが、その結果一人当たりの作業負担が大きくなるとともに、作業員自体も高齢化しているため、収集体制の変更も含めて実際にできるかどうかといった課題も挙がった。また、夏の暑さも厳しくなる中で、新たに作業員を採用できるのかといった懸念も事業者から聞かれた。相模原市環境事業協同組合には、町田市や八王子市で戸別収集の実績がある事業者もいるため、こうした事業者から課題や改善策等を伺いながら、今後も検討していきたいと考えている。 (奈良副市長)
地区の発言	市の一般廃棄物処理基本計画において「市民ニーズに対応した収集の検討」を明記しているが、いつ頃までに市として検討結果をまとめる予定なのか。
市の発言	調査結果は今年度末に出せるものと思っている。いつまでに方向性を出すかについては、市の一般廃棄物処理基本計画の中に廃棄物の戸別収集を方策として明記しているが、この計画自体が令和9年度までであり、普通に考えればそれまでに決めるものと思われる。戸別収集や有料化は課題が非常に多く、様々なご意見を伺いながら進めていくべきだと考えている。 (佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長)
地区の発言	ある地区で実証実験するなどといったことも計画の中にあるのか。周辺自治体ではすでに戸別収集を実施している中で、もう少しスピード感や今後の見通しを示してほしい。 また、城山地区では、地域包括支援センターの職員が地域の様々な会合に出て、高齢者の移動問題などに取り組んでいる。ごみ収集に関しても同様に、自治会だけで完結させるのではなく、市がさらに住民を巻き込んで、一緒に解決策を考えられるような場を設けられないか検討してほしい。
市の発言	ごみ・資源集積場所の運営が難しいことは、自治会員である個人的な立場としても十分承知している。確かに町田市や八王子市などが先行して戸別収集を行っているが、大都市の横浜市や川崎市では実施していない。それも様々な課題があつての選択だと認識しているが、今後はより真剣に考える必要がある。特に要介護者や高齢者のごみ出しは切実な課題と思っており、先行して実施できるかについては今後検討していきたい。(佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長)
市の発言	以前南区役所で勤務していた際、各自治会長からごみ収集の話が多く出ていたが、自治会の加入率や集積所の場所などの課題について、自治会とごみの担当部局との橋渡しや様々な場を設けるなどしていた。先ほど歩み寄りができないかと

	<p>いう意見もあったが、そうした仕組みづくりには対話が重要だと思っており、ごみの担当部局をはじめ、まちづくりセンターや区役所も一緒になった話し合いの場を頻繁に設けることは重要だと考えている。</p> <p style="text-align: right;">(石原緑区長)</p>
地区の発言	<p>小倉は市街化調整区域で土地代も安いですが、それでもごみステーションを新規に置こうとしても、住民からは良い返事はもらえない。市の横の連携を密にして、公園の一角や広めの市道の一部に集積所を設けるなど行わないと解決しないのではないかと。住宅も増加する中で、ごみ捨て場が山のようになり、トラブルも起きやすくなっていると感じる。少しでも解決の可能性があれば、私たちの自治会としても一緒になって話ができる状況になって、良い方に向かう気がする。</p>
市の発言	<p>繰り返しになるが、ごみ・資源集積場所は市民にとって大変重要な問題だと認識している。縦割り行政ではなく、横の連携をしながら良い方向を見出し、安心して生活できる環境の実現に向けて努力したいと考えている。</p> <p style="text-align: right;">(佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長)</p>
地区の発言	<p>市の関係者は良く努力していると感じている。小倉には不法投棄場所が多くあるが、警察と津久井クリーンセンターが一緒になり解決の方向へと進んでいる。</p>
市の発言	<p>市道や公園の一部を削るのが適切かどうかといった問題はあるが、緑区長も話した通り、地域との意見交換の場に関する提案もいただいたので、今後しっかりと取り組んでいくことはこの場で約束させていただく。</p> <p style="text-align: right;">(奈良副市長)</p>
地区の発言	<p>市でごみを資源化して売却したことで、いくらかの収入があったと聞いた。そうした収入をごみ置き場の修理や新規分譲地への新規整備などに充ててほしい。ごみの捨て方などは住民で改善できるが、ごみ置き場の課題は自治会などの努力では限界があり、このままでは不法投棄などの問題も起こりうる。ぜひ市の方でごみ置き場に回収ボックスを設置するなど、改善をお願いしたい。また他自治体では夜間収集もしていると聞いている。</p>
市の発言	<p>資源ごみの売却について、9億3千円ほどの収入にはなったものの、回収にその倍以上の金額がかかっていることはご承知いただきたい。ごみの中には資源化できるものが多くあり、分別などの市民に対する普及啓発は取り組んでいるところである。夜間収集も様々な課題があると聞いており、戸別収集についても、玄関先にごみを置くことによるカラス被害の対策など課題は多いが、ごみ・資源集積場所に行くことが難しい高齢者などへの対応は必要だという認識であり、早めに実現できるように努力していきたい。</p> <p>南清掃工場では、令和3年度から焼却炉に溜まった金と銀を回収する事業を行っており、令和3年度は約3,700万円、令和4年度は約1,600万円の収入になった。現在、パラジウムなど他の金属の回収についても検討を進めており、こうした取組についても今後進めていきたい。</p> <p style="text-align: right;">(佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長)</p>
地区の発言	<p>ごみについて皆で考えるシンポジウムなど、市民が参加しながら行政と一緒にごみについて考えていく動きも必要ではないか。ごみは生活をしていく中で避けられない課題であり、市全体で大きな取組を行うことで、全国にも発信できるのではないかと。そうした取組もSDGsの一つかと思うし、市民を巻き込んで、それが面白いとなると、また違った動きが出てくるかなと思う。</p>
市の発言	<p>この場でSDGsエキスポのチラシもお配りしているが、廃棄物も一つの資源</p>

	<p>として捉えれば有効活用ができる。市内でも賞味期限切れの食品を飼料化する事業者など、従来ごみとして捨てていたものを資源化する取組が進められており、皆様にもこうした取組を知り、理解を深めていただきたいと考えている。</p> <p>(佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長)</p>
地区の発言	<p>高齢者からごみ処理の依頼をされることもあるが、分別の方法が分からず、プラスチックごみなどが山積みになっている家もある。努力して分別しても、残った一般ごみの捨て場も不足している。自治会への加入如何に問わず、住民が気持ちよくごみを捨てられるように、行政で何とかしてほしい。津久井クリーンセンターなどに見学に行き、分別方法や出し方も勉強してきた。自治会などで参加者を募って見学に行くのも良いかと思う。</p>
市の発言	<p>清掃工場など処理施設を実際に見学することが近道であると私も考えている。ピットに溜まったごみや焼却灰の最終処分場を見ることで、ごみを分別することの重要性を知っていただきたいと考えており、清掃施設課で見学を受け付けているので、ぜひお問い合わせいただきたい。</p> <p>(佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長)</p>
地区の発言	<p>高齢者のごみ捨ての現状について、ごみ捨て場まで交通量が多い道路を渡る必要があるため早朝に捨てに行く人や、ごみの分別がうまくできずにごみ屋敷になっている家がある。ごみ捨てをボランティアやヘルパーに頼もうとしても、そもそも人数が不足している中で収集日に合わせて来てもらうことが難しく、収集日より先に出すと地域から苦情が出てしまう。そうした現状では、しっかりとした蓋がついたごみ捨て場があるとカラスの被害も出ず安心して捨てられるので、自治会などに頼ることなく、市で設置をしていただけるとありがたい。</p>
市の発言	<p>高齢者のごみ出し問題は喫緊の課題であると認識しているが、実情がまだ理解できていない点もあり、様々な方からご意見を伺いながら、今後どうすべきか検討していきたい。</p> <p>(佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長)</p>

市長の感想等	<p>本日は貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。</p> <p>ごみ問題の解決に向けて、地域と市が一緒になって解決していこうという力強い言葉も地区の方からいただき、大変ありがたいと感じる。戸別収集について、副市長からも話があったが、ぜひ対話の機会を作っていきたいと思う。私たちも待つ行政から出向く行政に変えていく必要があると考えており、皆様からいただいた貴重なご意見を形にしていくことが役割だと思っているので、今後もご協力を賜りたい。</p> <p>一般ごみ収集運搬のDX化について、昨年6月から12月まで、津久井地域限定で小田急電鉄と協働による実証実験を行ったところである。宅地造成で住宅が増えてもごみ・資源集積場所が整備されず、ごみがあふれてしまうという問題があることを知った。改めて、ごみ・資源集積場所のあり方など今後の対話で議論していきたい。</p> <p>城山地区での実証実験の話もあったが、地域から相模原市全体や神奈川県を変えていくような解決策を働き掛けていくことは面白いと思っている。以前横浜市が一日当たり30グラムのごみを減らす取組をした際も、結果として全国に広まった。</p>
--------	--

まちづくりを考える懇談会に全地区出席しているが、約3割がごみをテーマとして扱っている。城山地区は皆様が熱心に議論されており、城山地区で先行して実証することも、今後の展開次第ではできると考えている。

高齢者のごみ出しについて、大野北地区でも同様の話があり、来年度取り組む必要があると現在話をしているところである。戸別収集となると、さらなる民間事業者の協力が不可欠となるが、既に町田市などで実績がある事業者もある一方、難しいと考える事業者がいるなど、様々な反応がある。ただし、人口が多い福岡市や名古屋市、同規模の八王子市や町田市では実績があり、できないことはないと考えている。今年度、戸別収集のあり方に関してコンサルタントに委託調査しているところであり、結果を受けて今後議論していきたい。

いつまでに実施するのかなど見通しについて話があったが、私は目標年数を出したほうがいいと思っている。仮に先延ばしになった場合でも、理由を説明して先に向かっていく姿勢は大事だと思っている。

高齢者のごみ出し支援を地域で行っていただいていることに感謝申し上げます。また、資源ごみや金銀の売却益に関しても、様々なごみ対策に充てられるよう今後検討していきたい。

津久井クリーンセンターや最終処分場などの現場はぜひご覧いただきたい。麻溝地区の最終処分場跡地はメガソーラーパークとなっているが、10年後には公園となる予定である。そうした跡地利用に関しても、理解を深めてもらうためにはまず現地を見ることだと思っているので、お子さんも含めた皆様でご覧いただきたい。

また、ごみ出し支援を行うヘルパーなどが不足しているという話があったが、来年度市としても対策を考えているので、地域包括支援センターや高齢者、障害者の方などのご意見を今後もお聞かせいただきたい。

今後も皆様と対話をしながらわくわくする相模原を作っていきたいと考えている。自治会に入って負担が増えたと思われないような環境にしていく必要があると考えており、自治会の加入率向上や災害に強いまちづくりをこれからも進めていくので、今日いただいたご意見を踏まえて勉強してまいります。（本村市長）